

令和2年度 個別学力検査等
英語 A 出題の意図

問題Ⅰ 英文和訳

(A) 「友情」とは「相手のために何かしてあげること」とであると定義し、ネット上の顔も知らない者同士の関係が友情と呼べるのか、そのような友情の可能性を疑問視する内容で、スマートフォンやインターネットに長い時間を使う現在の高校生にとって、身近な時事的なエッセイである。抜粋文中には熟語 “have one’s back” 「肩を持つ・味方をする」や “would bother to do” 「わざわざ～する」などの論旨を示す重要部分があり、やや難しい “the most defining feature” や “embodied mutual activities” もある。これらの意味を理解して、自然な日本語にうつすことのできるような実践的英語力を問うた。

(B) 人の注意の仕方には大別して、1つのものに向けられる注意と全般的な注意の2種があること、前者においては、気の散ることを全て遮断して、全神経を集中することが述べられている。この解説文では「方向性注意」の具体例を述べる箇所に engrossed 「没頭する・夢中になる」という難語があるものの、数学の問題、読書、機械組み立て修理といった内容と組み合わせて、その意味を推測できるかどうかを試した。

問題Ⅱ 長文読解総合問題

「科学技術」という表現があるように、「技術」と「科学」は同一視されることが多いが、この解説文では両者の区別を説明してから、人類の大きな発展を促した「火を扱う技術」に焦点を当てる。人が火を扱うようになったおかげで、他の獣より優位に立ち、食物を調理することで栄養を有効に摂取できるようになり、頭脳も発達し、農業を始め、都市生活ができるようになったことを、興味深い例を出しながら違意の文体で叙述する。この流れをつかめれば、多少の難語、carnivore 「肉食獣」や ingenuity 「器用さ・発明の才能」なども、文脈からその意味を推測できるはずである。また credited や around など、難語ではない多義語も多出するため、これらについても文脈でその意味を推測する力を問うた。

設問(1)は熟語や多義語の文脈中での意味を問う。設問(2)(3)は上記の全体内容を踏まえて、技術で作られた眼鏡について、人と哺乳類の脳のカロリー消費の差についての説明部を明快な日本語で訳出できるかを問う。設問(4) は “landscape architecture” の意味を理解しているかどうか、さらにはその内容の言い換え部が判断できるかを問う問題。設問(5) は「洞窟の所有権が移った」という凝縮された表現が、段落中の前後の部分を要約したものであることを判断する力を問う。設問(6) は文章全体をじっくり通読する力を問う選択問題である。安易に速読すると誤りやすい。

問題 III 自由英作文

日本社会で進みつつあるキャッシュレス化を題材に、適当な例をあげながら指定された語数の英語で説明できるかどうかを問う問題である。こうした社会の利便性を評価するか、弊害や問題点をあげて注意を促すか、または両者を対比させるか、いずれの立場でも解答できるように問題文を工夫した。賛成反対どちらにせよ、具体例を挙げて結論へとスムーズに論述した英文が高く評価される。この自由英作文では、問題 IV の和文英訳と異なり、内容の縛りがない分、受験生の語彙力・構文力が明瞭にうかがえるため、少ない語数の英文中で、無駄な繰り返しや重複語句を避けて、論旨を明快にするような適切な連結表現の使用が必要であろう。

問題 IV 和文英訳

(A) (すべての学部)の志願者)

「哲学者の言葉を知るとは、過去に人類が犠牲を払って得た教訓を学ぶことである」という論旨をつかみ、自然な英文で表現する力を問う問題である。第1段落の「高い授業料を払って...教訓を得ている」は「同時代の悲劇」に対応しており、第2段落の下線部では「高い費用を払って得た教訓を学ばせてもらう」に変化している。これらの日本語表現「費用」「授業料」が、お金のことではないとわかれば、様々な訳出が可能となる。

(B) (イ) (文学部の志願者)

文学部志願者に特に考えてほしい読書の意味、生き方を見直すための読書を提案する内容である。「無批判に受け入れ」や「振り返って吟味し」などのやや難しく思われる部分も、高校で学習した語句と構文を用いれば十分自然な英文にすることができるはずである。

(B) (ロ) (文学部以外の学部の志願者)

問題日本語文の第1文が主張、第2文がその理由となっている関係がわかれば、様々な構文の英語になる。「傲慢」「特権的」などは該当する英単語を知らなくても何とか工夫すること、「実際には見ていないことを、まるで見てきたように」の対比に仮定法が有効に使われているかなどが、評価のポイントとなる。